

物語文を読んでえらぼう

小5／物語を読んで、人物の気持ちや理由を1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

1 学級委員の選挙を よんで、そのときの大地の気持ちを1つえらびましょう。

学級委員の選挙で、大地は二票の差で落ちた。友だちが「おしかったね」とかたをたたくと、大地は「うん」とうなずきながら、かばんの中のそろばんに目をやり、ほっと息をついた。委員になれば、毎週木曜日のそろばん教室を休まなければならなかったのだ。

- 1 選挙に落ちたので、次こそ選ばれようと心に決めている。
- 2 選挙には落ちたが、二票差まで追いつけたことに満足している。
- 3 選挙には落ちたが、教室を休まずにすむので安心している。
- 4 選挙に落ちたくやしさを、友だちの前ではかくしている。

2 夏の川を よんで、そのときのみくの様子を1つえらびましょう。

夏休み、みくは祖父と川で、石を投げて水面をはねさせる遊びをした。祖父の石は七回もはねたが、みくの石は一回もはねずに、ぽちゃんとしずむ。それでもみくは、しずむたびにおなかをかかえて笑い、また石をさがしに走った。

- 1 うまくはねなくても、しずむのがおかしくて楽しんでいる。
- 2 うまくはねないので、祖父にコツを教わろうとしている。
- 3 うまくはねないので、祖父に負けまいとむきになっている。
- 4 うまくはねなくても、祖父の七回に感心して見とれている。

3 停電の夜を よんで、悠の気持ちの変化を1つえらびましょう。

夜、とつぜん停電になり、家じゅうが真っ暗になった。悠はこわくて、母のそでをはなせなかった。父がろうそくをともし、家族で小さな火をかこんで話していると、悠はいつのまにか自分からしりとりを始めていた。やがて電気がつくと、悠は「えー、もう？」と口をとがらせた。

- 1 はじめはこわかったが、ろうそくの火まで、あぶなく思えてきた。
- 2 はじめはこわかったが、電気がついたことで、やっと安心できた。
- 3 はじめから少しもこわがらず、真っ暗になったのを楽しんでいた。
- 4 はじめはこわかったが、電気がつくのが残念なほど楽しかった。

物語文を読んでえらぼう【こたえ】

小5／物語を読んで、人物の気持ちや理由を1つえらびましょう

なまえ _____

ひづけ _____

答えと、たしかめるところ

1 答え：3

そろばんに目をやり『ほっと息をついた』。委員になれば『そろばん教室を休まなければならなかった』からです。くやしさを、次への決心は書かれていません。

2 答え：1

しずむたびに『おなかをかかえて笑い』、また石をさがしに走りました。むきになる様子や、祖父に教わる・見とれる様子は書かれていません。

3 答え：4

はじめは『母のそでをはなせなかった』（こわい）。電気がつくと『えー、もう?』と口をとがらせました（もっと続けたかった）。電気がついて安心したのではありません。

読み取るコツ

気持ちの変化は、前と後の様子をくらべます。行動や体のようす（息・口もと・目）に注目します。